

生徒Eさん：知事さんの高校生活はどうでしたか。

知事：私の高校生活は、多分一番しんどかったです。悩んでいました。身近な勉強に意義が見出せなくなったというか、何のためにこんな勉強をするのかが見えてなかったと言いますか、その部分がものすごく大変でした。大学受験を目指して勉強していましたが、勉強して先にどうなる、例えば、こういうことは高校生の前で言うてはいけない、教育長に怒られるかもしれませんが、英語が大嫌いだったんです。とにかく英語が嫌いで、なぜ「アヒルが池で泳いでいます。」みたいなことを覚えなさいといけないのかと。そんなことを覚えても意味がないじゃないかと思っていました。いまいち見出せず、結局大学に入る前に一度浪人をしました。一旦浪人したら、今度2浪したら嫌だという気持ちで必死に勉強して大学に行きました。大学に入って、今度は社会人になって、何のために英語を勉強しないといけないのかがよく分かりました。社会人になってから一生懸命英語を勉強しました。例えば、仕事をしていると日本ほどの大国になってくると、世界との関わりなしには生きていけないわけです。仕事をしていてもだんだん英語が出てくるようになってくる。さらに、少し留学をさせていただいたことがありましたが、韓国の人も中国の人もどういう人達にしても、英語がしゃべれるかしゃべれないかで、そこから先もっと上の勉強かできるかどうか全部決まってきます。仕事の上でも、さらに人との付き合いでも、勉強の面においても、とにかく英語ができるかどうかみたいなのがものすごくあるということに気が付きました。それで何のためにあのとき英語を勉強しないといけなかったかがよく分かったから、勉強するようになりまして。当時の僕は幼かったので、そこが分かっていたようなんです。生意気なことを言って申し訳ないですが、皆さんがなぜ自分はこんなことを勉強しないといけないのかと思ったときには、ぜひ大人に聞くことをお勧めしたいと思います。「意思もむなしく応仁の乱」1467年と覚えることに何の意味があるのかと思うかもしれませんが、1467年に応仁の乱が起こった結果、当時の足利幕府が崩壊し、後々の戦国時代が起こり始め、最後は豊臣秀吉が統一するまでこの時代が続いていくのだと。「ひとむれみちる江戸幕府」江戸幕府の開府に至るまで、1603年までこういう混乱の時代が続いていく戦国時代です。けれど、この時代はみんなが競争しているのでどんどん経済も発展していったし、経済成長がすごかったから、人口がものすごく増えているんです。むしろ、それ以降の江戸時代に伸びていく基礎を作っていることを考えると、1467年とか1603年とか知っていないと駄目かなと思うでしょう。勉強することには必ず意義があると、私は41歳のおっちゃんだから今は分かるけれど、当時の皆さんぐらいの歳のときには分かっていたから、あえなく受験で落ちてしまったんです。勉強については、そういう感じでした。

他方で、夢と希望は沢山持っていました。政治家になりたいと、そういうことも思ったりしていました。私はこういう夢を叶えたいと思うけど、それに対してやっている勉強というのがあまりにも関係ないように見えた。ものすごく関係あったんですけどね。そこに気づけなかった。そういうときだったように思います。